

# 1 小児腎疾患の臨床的研究

富山医科薬科大学 小林 収

研究協力者 新潟大学小児科 岡田敏夫 和田博義

大川賢一

## I. レノグラム計量診断に関する試み

学童の腎疾患は年々増加する傾向にあり、その診断法、ならびに治療法管理法について未だ解決されていない問題も多い。

私どもが日常診療において使用しているラヂオアイントーブレノグラムは腎循環動態を経時的に表わし、かつ腎機能を評価する方法として有用な検査法であり、これまで各種腎疾患の診断に、また長期にわたる腎疾患患児の腎機能の経時的観察の手段として用いられてきた。しかし一面、定性的評価のみで定量化が難しく、かつ再現性に乏しいとの欠点もある。

今回はレノグラムの定量的評価を目標に、その曲線から、他のいくつかの腎機能検査値を計算するための線形重回帰式を作る方法を試みた。まず、レノグラムを数値化するに当っては新たに腎臓の排泄機構を考慮した数式モデルを構成する。このモデルは5つのパラメーターを含んでおり、これよりあらゆる型のレノグラムを再現することが可能である。また逆に実際のレノグラムから、5つのパラメーターを計測することが出来る。レノグラムから求めたパラメーターとレノグラム以外のいくつかの腎機能検査値について、重回帰分析を行った結果、PSP 15分値、GFR、RPF、BUN、最高血圧、最低血圧の6項目の検査値を統計学的に推定しうる事が解った。

レノグラム検査から多くの腎機能検査値を推定できることの意義は大きく、今後臨床にきわめて有用なものと考えられた。

## II. 学校検尿に関する研究

1) 学校検尿に関する研究学校検尿などで発見された尿異常所見所有者のなかには諸種の疾患が含まれていることは衆知の通りであるが、1つの特徴として家族性に異常が発見される場合があげられる。このなかにもいろいろの疾患、病態が含まれているが私どもが現在までに集団検尿で尿異常所見を指摘され、当科に入院して検査を行った57例のうち、3家系にみられた家族性腎疾患に

ついて報告した。

第1の家系は姉が学校検尿で顕微鏡的血尿を発見され、検査のために入院したが、弟は感冒様症状の後、肉眼的血尿を指摘され入院。

なお母は現在、慢性腎炎にて治療をうけている。姉は腎生検像にて特別の変化はなかったが弟は明らかな増殖性糸球体腎炎を呈していた。このようにこの家系ではいずれも異なった病型の糸球体腎炎像を示した。

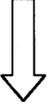
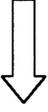
第2の家系では蛋白尿、血尿を発見された例の母方の家系に腎疾患を有するものがあり、いとこに同じく蛋白尿、血尿が認められた。

これらの症例について特徴と思われたことは電顕像にて糸球体基底膜の菲薄化であり、これは家族性腎症における1つの特異像と考えられた。

第3の家系では兄弟例で、第が学校検尿にて発見され、尿蛋白分画像では尿細管性蛋白尿の分画像を示し、手関節レ線にてクル病様変化を認め、兄についても検査した結果、蛋白尿、糖尿を認め、幼時にクル病様変化のあったことを認めた。

このように家族性に発見された症例ではそれぞれに特異な病像を示すものがあり、その複雑性を示すものと考えられる。

2) 学校検尿で蛋白尿を発見され、その後長期間追跡しえた症例で、蛋白尿の分画像は尿細管性蛋白尿を示し、定期的検尿をつづけた結果、最近糖尿が陽性にみられるようになった。しかし発育は良好で目覚症状は全くない。これと類似の症例は上述の第3の家系の兄弟例であり、いずれも現在なお診断未確定例であるか、共通所見として尿細管障害型の蛋白尿を示し、かつ発育、知能いずれも良好であり、なんら自覚症状もない。この3症例を比較するとこの兄の例と上述の長期経過追跡例に糖尿が出現している点で、さらに症状の進行した型とも考えられる。この3例とも尿細管障害が考えられるが従来から記載されている病型とは一致しない。これらについてはさらにアミノ酸検査を含めた諸検査を経過を追って観察する必要があると考えている。

 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

レノグラム計量診断に関する試み

学童の腎疾患は年々増加する傾向にあり,その診断法,ならびに治療法管理法について未だ解決されていない問題も多い。

私どもが日常診療において使用しているラヂオアイソトープレノグラムは腎循環動態を経時的に表わし,かつ腎機能を評価する方法として有用な検査法であり,これまで各種腎疾患の診断に,また長期にわたる腎疾患患児の腎機能の経時的観察の一手段として用いられてきた。しかし一面,定性的評価のみで定量化が難しく,かつ再現性に乏しいとの欠点もある。